

代表質問

6月定例会では、9つの会派が代表質問を行いました。代表質問を行った会派の名称、発言順及び発言時間は次のとおりです。

民進・連合・社民(94分)、清風会(111分)、公明党(162分)、創生市川第2(77分)、日本共産党(111分)、自由民主党(111分)、創生市川第1(94分)、創生市川第3(77分)、無所属の会(111分)

空港への直行バス

問 市川市バスポートセンターが開設してから約1年が経ち、市民の評判もよくとも便利になったとの声を聞く。ただ一方で、JR市川駅から羽田空港への直行バスは運行しているが、バスポートセンターを有する本市から成田空港への直行バスは運行していない。

答 本市から成田空港までをなく直行バスの誘致について、市の考えを問う。
答 本市から成田空港まで直行バスを運行する場合、複数の自治体間の連携やバス事業者を含む官民の協働が必要と考えている。現在、バス事業者としては成田空港への直行バスの運行予定はないが、市としては、採算性の観点から、利用者を確保できるJR市川駅以外の駅を経由するルート等を、

自由民主党

中山 幸紀

〔総括質問者〕

ほそだ伸一

佐藤ゆきのり

かいづ 勉

県道船橋行徳線

バス事業者と協議していきたく考えている。

問 JAいちかわ原木中山支店前の県道船橋行徳線はS字急カーブになっており、周辺の市民が危険だと懸念している。当該道路の整備内容、現在の状況及び今後について、市の見解を問う。

答 当該道路はS字カーブが連続しており、交差点が2箇所連続していることから、見通しの悪い状況となっている。平成22年には交差点に信号機が設置され、過去3年間、人身事故の報告はないが、道路改良を行うことで、より安全になるものと認識している。本交差点の道路管理者である県は交通量調査や測量等を行っており、29年度は本市

や関係機関と調整を図りながら、道路設計を進める予定で取り組んでいる。今後市としては市道との交差点もあることから、交通事故の防止及び交通の円滑化のためにも、県に協力していきたいと考えている。



J Aいちかわ原木中山支店前の県道船橋市川線

清風会

竹内 清海

〔総括質問者〕

石原みさ子

松井 努

片岡きょうこ

青山 博一

新聞を活用した教育

問 関東1都6県の小・中学生、高校生を対象に新聞切り抜き作品コンクールが開催され、本市の子ども達は小学校の部最優秀賞を含む

むらつの賞を受賞した。新聞を活用した教育は、主権者教育の観点から、今後一層重要性が増すと考える。市の現状と取り組みを問う。

答 市内の小・中学校では、市川新聞販売組合の厚意により、平成21年度から、小学4年生以上の全教室に新

待機児童対策

聞が毎日無償で配達されている。また、同組合は新聞感想文コンクールを主催し、入賞作品を壁新聞にして各学校に無料で配布している。教育委員会の今後の取り組みとしては、教員側が新聞を十分に活用しきれていない実情を踏まえ、新聞活用のコツを紹介したリーフレットを作成し配布していく。

創生市川第1

加藤 武央

〔総括質問者〕

田中幸太郎

小泉 文人

岩井 清郎

ごみ収集回数の削減

問 本市では、平成29年4月より、ごみの収集回数を削減した。この収集回数削減に関するこれまでの対応と効果はどのようなものか。また、収集回数削減の実施後に「収集日の周知が行き届いていない」、「収集回数変更の目的が見えない」等の声を聞いている。そこで、これらの声に対する今後の啓発や周知等の対応について、市の考えを問う。

答 市はこれまで、自治会や関係団体、全ての市民を対象にした住民説明会を行い、ごみの減量・資源化の必要性、収集回数削減の内容の他、収集日に関する説明を行ってきた。併せて、ごみの分別方法や臭い対策についても説明を行った。この他、「資源物とごみの分け方・出し方リーフレット」

を全世帯へ配布、広報いちかわへの掲載や各公共施設へのポスターの掲示による周知の他、スマートフォンを活用したごみの分別アプリの配信をしたところであ



クリーンセンターへ向かう家庭ごみ収集車

は増加しており、更なる対策が急務となっている。29年度からの定員拡大計画について、更なる受け入れ枠の拡大及び保育園の整備に関する市の考えを問う。

答 28年度は、認可保育園の整備等に加え、いちかわ保育園の整備を進める

認可保育園の整備を進める他、本市の待機児童の多くを占める0〜2歳児を対象とした小規模保育事業所の設置等を行い、29・30年度の2力年で2000名の定員確保を図っていきたい。

※なお、三浦一成議員の所属会派は代表質問時点では自由民主党でしたが、6月定例会閉会後の7月3日付けで同会派を離れ、新たに会派の結成を届け出ました。